



図書だより 9月

令和3年8月27日
開南幼稚園 永森 加奈

たくさん遊ぼう！

日中の日差しはまだまだ暑いですが、夜聞こえる虫の音が心地よく、秋気配を感じるようになりました。

長い休みが終わり、お子さんの様子はいかがですか？ 始業式の日の子どもたちは、久しぶりで少し恥ずかしそうにしながら絵本の返却にやって来ました。そんな中、絵本を読みに来た A ちゃんが「これ面白かった～！」と、以前“ながもりさんのおはなしかい”で読んだ本を何冊か手にしていました。2カ月以上経っているのに覚えていてくれたことがとても嬉しく、改めて、心に残る絵本を子どもたちに伝えたいと思いました。のんびりとお家で過ごすことが多かったと思います。今まで通りではないこともたくさんあるかと思いますが、幼稚園の生活のリズムを整えて、子どもたち自身が様々なことに想像を膨らませて楽しく過ごせるよう、寄り添っていきたいです。

富安陽子さんのお話

「やまんばのむすめ まゆ」でおなじみの富安さんは私の大好きな作家の一人です。セミナーでたくさんのお話を聴きましたので一部紹介します。

“大人に囲まれて育った幼少時代、祖父母に実名入りの怪談話を聞いたことが原体験になり、小学生のときからたくさんのお話を書いていた。高校の卒業記念にと、書きためていたものから厳選して、親が自費出版で短編集を100冊作ってくれたものが、人づてに福音館編集部に渡り、童話を雑誌に書くようになった。絵本の面白さがわかったのは、親になり子どもに読む立場になってから。「もう一回読んで！」と何度も言われたことがきっかけで絵本の吸引力に気付き、子どもが夢中になる絵本を作りたくなり、「まゆ シリーズ」ができた。耳で聞いてわかる言葉を選び、文章はシンプルかつ単純でリズムよく、子どもが楽しめるように書く。絵本は動画ではないけれど、時間が流れる場面展開になるよう、めくった時のインパクトを大事にして、絵と文章の足並みをそろえることが大事。” (福音館書店 絵本セミナー より)

富安さんのファンタジーの世界は読んだ後、温かい気持ちになります。楽しいエピソードを思い出しながら、子どもたちにたくさん読んであげたいと思いました。

9月 貸出し

貸出	8/27 (金)	3 (金)	10 (金)	17 (金)	24 (金)
返却	8/30 (月)	6 (月)	13 (月)	21 (火)	27 (月)

*年長・中の希望者には月曜日も貸出しします。

(水曜日までに返却してください)

*お子様が自分で用意できるよう、声掛けをお願いします。

*忘れると次回は貸出しできません。

*「新年度のしおり」P6「図書室からのお知らせ」をもう一度よく読んでください。

ありがとうございます

夏休み中、幼稚園の畑で作った夏野菜を、ご購入いただきました。ありがとうございます。野菜販売収益(11,500円)はリサイクルバザーの収益金と共に、絵本購入のために利用いたします。



思い出の絵本



開南幼稚園を卒園した高校2年の娘に、思い出の絵本を聞きました。題名は覚えていないものの、その情景や登場人物、その時の自分の気持ち等、次から次へと話してくれました。

例えば「押し入れの話。とても怖いけど、面白かったな～」と娘。すぐに「おしれのぼうけん」(童心社)だとわかりました。

その他「こんとあき」(福音館)、「おおきな木」(あすなろ書房)、「おふろだいすき」(福音館)など家の本ではないものが多く、幼稚園で沢山の心の栄養をもらっていたのだと嬉しく思いました。そして、今でも「永森さんの膝の上で読んでもらった」という温かな記憶が残っているようです。

是非、お子さんが大きくなった時に「思い出の絵本を聞いてみてください。(ひよこ 郡司恵)